

施設関係者評価実施報告書

令和 5年 3月 31日

評価・報告者氏名 櫻井 れい子

①全体評価

昨年度に引き続き、子ども主体の教育保育に向けて取り組んできた。少しずつ進歩が見られるが、まだ職員の研修を踏まえて質の向上が必要だと思われる。コロナ感染症拡大防止のため、様々な行事が中止になったり、簡素化されたが、その中でも感染症対策等に留意し、子どもたちが喜んで楽しめるような行事の工夫ができた。

②学校評価の個別評価(例)

教育課程・指導
保育実践の中で職員の学びの振り返りが課題である
保健管理
年2回の内科健診、年1回の歯科検診はもとより、日々の健康観察、記録と管理は細やかに行われて
安全管理
職員の毎月の安全管理を通じて、職員全体で安全管理の意識が高められている
特別支援教育
気になる子どもに対して、関係機関との連携のもと、援助・支援が行われている
組織運営
こども園の理念に沿って、子どもも大人も一人ひとりを大切にされた組織運営が行われている
研修(資質向上の取組)
職員全体での共通理解を深める機会を設け、また、個人の学びも保証できるよう計画的にリモート等にて研修に積極的に参加している。
教育目標・学校評価
園児や園の実態、設置者の理念に基づき、園の目標が設定され、自己評価が活用されている
情報提供
園にかかわる全ての人へ向けた日々のブログをはじめ、園だより、一日の様子、感染症発生状況、個人記録など様々な媒体を通じての情報提供が行われている
保護者・地域住民との連携
子ども理解を深める保護者参加行事は縮小して実施。地域の協力のもと実施している行事などはコロナ禍で実施できなかった。コロナ禍でも、楽しみながら行える工夫をしながら実施してきた
子育て支援
月曜日には赤ちゃん体操、離乳食・育児相談、火、木、金曜日には園庭開放を計画しているがコロナ感染症により中止したり、利用者がいなかった。引き続き、感染対策をしながら子ども同士と一緒に遊んだり、保護者が子育てについて相談したり話したりする場を設けていく
預かり保育
1号認定児の預かり保育は、2号認定児と変わりなく行っている。一般の一時預かりも実施している
教育環境整備
環境整備の充実が常に検討され、試行錯誤の中で行っている

③その他必要な評価

食育
日々の食生活における子どもたちと調理員との触れ合い、テーマに沿った食育、野菜の栽培、クッキングや地場産物の見学など様々な活動に取り組んでいる
行事を通じた子ども理解
運動会や生活発表会など保護者参加行事を通して、保護者と共有する子ども理解を大切にしている
小学校との連携
年に5回程度、小学校との交流を行い、スムーズな引継ぎ、連携が行えるよう計画しているが、コロナ禍の為、1回しかできなかった。

④課題と検討

自己評価の課題としては全体的に平均に近づいてきているが、個人の結果を見るとできていない部分とできていない部分の差が見られた。できていないところを見直し、少しずつでも出来るように改善していくことが必要だと思いました。主体的な教育保育へ向けての取り組みやドキュメンテーション化へ向けて、計画・記録の様式等を改善しながら行ってきた。少しずつ進歩、成果が見られるようになり、日々の活動、子どもの姿が見えるようになってきたが、職員の負担軽